

特定外来生物

# チャンネルキャットフィッシュ

硬骨魚綱 ナマズ目 アメリカナマズ科 *Ictalurus punctatus*

生態系被害防止  
外来種リストの区分

緊急対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

哺乳類

鳥類

魚類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

## 基礎情報

### 原産地

- ・ロッキー山脈以東のカナダ南部、アメリカ、メキシコ

### 現在の分布

- ・フィリピン、ロシア、ヨーロッパ諸国、プエルトリコ、ハワイに移入され定着している。
- ・国内では、霞ヶ浦・利根川水系、阿武隈川水系、琵琶湖・淀川水系、矢作川水系などに分布している。
- ・県内では、豊田市の矢作川(奥矢作ダムから明治用水頭首工まで)と東海市で確認されている。

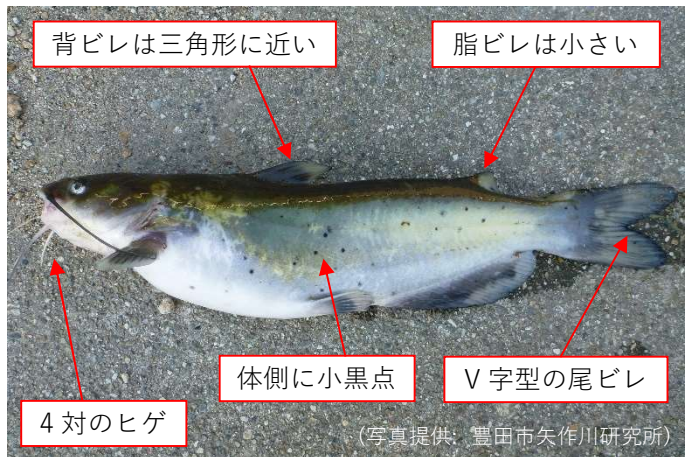


### 侵入の経緯

- ・1970年代に食用目的や観賞目的で米国から輸入され、霞ヶ浦をはじめ本州の複数の水系に定着した。
- ・本県では矢作川で1995年生まれと推定される個体が採捕されており、その10数年前に侵入した可能性があるほか、2000年頃から再生産しているものと推測される。県外では養魚場からの逸出が侵入の要因となっているが、矢作川には該当しないため侵入の経緯は不明である。

### 形態

- ・大きいものは体長100cmを越える。
- ・体の背側は暗灰色で、腹部は白色。大型個体では色が黒ずむ。
- ・背ビレは三角形に近い形で、そのはるか後方に小さな脂ビレがある。
- ・尾ビレは深く切れ込みV字型となる。
- ・頭部に4対(8本)のヒゲがあり、そのうち1対(2本)は鼻孔近くから出て上を向く。



大型の個体

生息環境

- ・主に流れの緩やかな河川の中～下流域や周辺の水路、湖沼に生息する。
- ・比較的深い水底で生活するが、時折浅いところに出てエサを食べる。
- ・矢作川では、ダム湖内、ダム直下の淵などで確認された。

生態・ライフサイクル

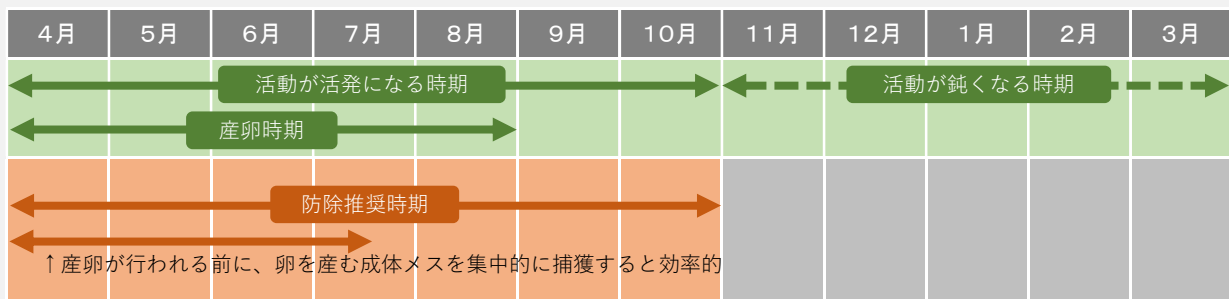
- ・夜行性で食性は雑食性。幼魚は主に水生昆虫を食べるが、成長と共に魚食性が強くなる。魚類のほか、甲殻類、貝類、カエル類、小型の哺乳類も食べるようになる。
- ・春から夏にかけて繁殖し、産卵時には雄が作った凹みや穴などに雌が産卵する。産卵後は雄が巣を守り、卵や仔稚魚を保護する。
- ・性成熟の度合いは、メスでは全長 45cm、オスでは全長 40cm を境に大きく上昇する。
- ・背ビレと胸ビレに極めて鋭いトゲを持っているため、他者に捕食されにくい。
- ・水温 0～32℃の範囲で生息可能であり、低水温・高水温環境での適応能力が高い。



(写真提供：豊田市矢作川研究所)

小型の個体

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

- ・類似種として、ナマズ(在来種)がいる。また、幼魚はギギ(本県では国内移入種)に似る。

ナマズ (在来種)

①背ビレが小さい      ①脂ビレがない

③2 対のヒゲ      ②尾ビレは小さく柔らかい

①背ビレが小さく脂ビレがない。  
②尾ビレは小さく柔らかい。  
③ヒゲは 2 対(4 本)。下あごの方が前に出ている。

ギギ (本県では国内移入種)

①体の色は褐色または黄土色

②小黒点がない

①体の色は褐色または黄土色  
②体側に小黒点がない。

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

## 影響・被害

- ・雑食性だが成長と共に魚食性が強くなり、捕食により魚類、水生昆虫、甲殻類、貝類、カエル類、小型の哺乳類等、様々な生物に被害を及ぼす。
- ・在来生物とエサやすみかの競合が生じる。
- ・繁殖力が非常に強く(推定産仔数 4,000~35,000 個)、放置すると陸水生態系及び内水面漁業に悪影響を及ぼすことが憂慮される。低水温・高水温環境での適応能力も高い。
- ・霞ヶ浦では魚類やエビ類が多数捕食されているほか、ウナギなどを捕獲する漁業に支障をきたす例やアユの友釣りにおいておとり鮎が捕食される事例もある。ヒレに鋭いトゲがあるため、魚網への被害や漁業従事者にケガを負わせる危険性も指摘されている。
- ・アユやナマズ類の細菌性感染症の宿主として知られており、感染症を媒介するおそれがある。



(写真提供: 豊田市矢作川研究所)

ナマズ(下)と同所的に生息する

## 生息・被害の確認方法

- ・夜行性で比較的深い水底で生活するため、泳いでいる個体を目視確認することは難しい。
- ・県民からの目撃情報の収集など、早期発見できる体制を整えることが重要と考えられる。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。
- ・釣り人や漁業従事者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。

## 防除方法

- ・釣り、延縄(はえなわ)、置き針、刺網等により捕獲する。
- ・河川工事に伴う水抜きや池干しの際に確認された個体を捕獲する。

### 推奨時期

- ・水温が上がり活動が活発になる4~10月の防除が推奨される(水温が低い冬は活動が鈍くなる)。
- ・産卵が行われる前(春~初夏)に実施すると、卵を産む成体メスを集中的に捕獲できるため、効率的に減らすことができる。

### 具体的な防除方法

- ・釣り、延縄(はえなわ)、置き針、刺網等により捕獲する。在来の魚類も捕獲(混獲)されるため注意が必要である。
- ・魚類の食害防止、再生産抑制の観点から、繁殖期に繁殖場所と推定されるエリアにおいて、全長40cm以上の個体を集中的に駆除するのがよいと考えられる。繁殖期終了後にも駆除を行う場合には、混獲が少ない延縄を用いるのが望ましいと考えられる(場所によっては延縄でも混獲が多い事例もあるため注意を要する)。
- ・河川工事に伴う水抜きや池干しの際に捕獲される可能性がある。
- ・捕獲した個体は原則としてその場で殺処理する。殺処理の方法として、氷締め、陸上での窒息、物理的な殺処理(頭部打撃、血抜き締め、その場でさばく等)がある。
- ・殺処理後の最終処理は、一般廃棄物として廃棄する(各自治体の基準に従う)。食用とすることも可能だが、寄生虫対策として加熱処理が推奨される。

【捕獲事例】

場所	方法	概要
矢作川 <small>(2005年より矢作川水族館および豊田市矢作川研究所にて実施)</small>	釣り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・釣り(一本釣り、ブッコミ釣り、浮き釣り)による捕獲を実施した。</li> <li>・エサは、アユ、オイカワ、モロコ、ドジョウ、エビなどの生きエサ(死んでいてもいいが、生きている方が食いがよい)を用いた。他に、小イカ、レバー、鯉釣り用の練りエサ、吸い込みと併用でコーン、ソーセージ、ミミズなどを用いた。</li> <li>・中層及び表層の釣りでは、動く生きエサが有効であった。好奇心は旺盛でルアーでも釣ることができる。</li> <li>・速い流れの中では、エサは生きたアユが有効であった。</li> <li>・流れの遅いトロ場やダム湖では、匂いのある練りエサ+生エサが有効。匂いには敏感で、練りエサを用いると興奮状態になり水面にも顔を出す。</li> </ul>
	延縄・置き針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・延縄(はえなわ)、置き針、浮かし延縄による捕獲を実施した。釣果が見込める一方、トラブルも多かった(船上でのトラブル、根がかりなど)。</li> <li>・針にかかった個体は激しく暴れ、石穴にもぐるため回収率が低く、糸切れも多かった。</li> <li>・「夜間、水面でも捕食をする」との情報をもとに、針を水底につけない「浮かし延縄」による捕獲を実施したところ、1ヶ月間で10匹を捕獲できた。根がかりしないため、岸から仕掛けの引き上げや送り出しが容易であった。</li> </ul>
阿武隈川 <small>(2015-2017年に福島県内水面水産試験場にて実施)</small>	延縄・置き針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刺網、延縄、置き針を用い、単位努力量あたりのチャンネルキャットフィッシュの獲れ具合を求めたところ、獲れ具合は刺し網、延縄、置き針で同程度であった。</li> <li>・刺網と延縄で捕獲された本種の全長組成を整理した結果、網の目合3寸(約9cm)以上の刺網では、性成熟する全長40cm以上の個体が主な捕獲対象になることが分かった。</li> <li>・刺網と延縄による本種以外の魚類の混獲数を整理した。その結果、漁業権対象魚種(フナ類、ウグイ、コイ)の混獲割合は、刺網では21%であったが、延縄では0%であった。また、その他の生物(ニゴイ、ナマズ等)の混獲割合は、刺網では21%、延縄では3%であった。混獲を避けるためには、刺網より延縄の方がよいと考えられる。</li> </ul>

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため要注意(行う場合は手続等が必要)である。
- ・ヒレに鋭いトゲがあり、体表にぬめりがあるため、手でつかむ際には保護手袋(軍手等)を着用する。
- ・たも網等で捕獲する場合、ヒレのトゲに網がからみ、無理に引きはがそうすると破損することがある。
- ・触った後は必ず石けんなどを使って十分に手洗いを。

必要な法令上の手続き等

- ・愛知県漁業調整規則に基づく特別採捕許可(漁法や漁具により必要となる場合がある)

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 魚類 > チャンネルキャットフィッシュ (国立研究開発法人 国立環境研究所) <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50120.html>
- ・みんなのアメリカナズガイドブック (国立研究開発法人 国立環境研究所 琵琶湖分室,2022)
- ・日本の外来種対策 > 特定外来生物の解説 > チャンネルキャットフィッシュ (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-sa-01.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 魚類 (環境省 自然環境局) [https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/5hp\\_gyorui.pdf](https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/5hp_gyorui.pdf)
- ・だれでもできる外来魚駆除 2-オオクチバス、コクチバス、チャンネルキャットフィッシュの最新駆除マニュアル- (水産庁・国立研究開発法人水産研究教育機構・全国内水面漁業協同組合連合会,2018)
- ・日本におけるチャンネルキャットフィッシュの現状. 保全生態学研究 15: 147-152. (片野修・佐久間徹・岩崎順・喜多明・尾崎真澄・坂本浩・山崎裕治・阿部夏丸・新見克也・上垣雅史,2010)
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち 2021 (愛知県,2021) p.71 チャンネルキャットフィッシュ (谷口義則)
- ・矢作川のアメリカナズ (矢作川水族館, 2008) <http://yahagigawasuiizokukan.web.fc2.com/amenama/200812sympo-amenama.pdf>
- ・矢作川におけるチャンネルキャットフィッシュの生息状況と採集方法. 矢作川研究 18: 25-31. (山本大輔・酒井博嗣・阿部夏丸・新見克也・吉田誠,2014)
- ・実用化技術情報阿武隈川におけるチャンネルキャットフィッシュの駆除方法 (福島県内水面水産試験場 平成 29 年度の成果) <https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/261592.pdf>